

氏名	星 文彦	部署	理学療法学科	職名	教授
研究分野	中枢神経障害理学療法、運動学、姿勢制御				
学位	博士(障害科学)、教育学修士				
学歴	1977年 東京都立府中リハビリテーション学院、1988年明星大学人文学部心理教育学科、1994年北海道教育大学大学院修士課程教育学研究科、2003年東北大学大学院医学研究科後期課程障害科学専攻				
経歴	1977年東京都立府中病院・リハビリテーション科・主事、1980年東北大学医学部附属病院鳴子分院・理学療法部・文部技官、1983年北海道大学医療技術短期大学部・理学療法学科・助手、1992年医療法人勉仁会東小樽病院・理学診療科・科長、1992年北海道大学医療技術短期大学部・理学療法学科・非常勤講師(1994年3月まで)、1994年北海道大学医療技術短期大学部・理学療法学科・助手、1997年北海道大学医療技術短期大学部・理学療法学科・助教授、1999年東北文化学園大学医療福祉学部リハビリテーション学科・教授、2003年東北文化学園大学大学院健康社会システム研究科健康福祉専攻・教授、2007年埼玉県立大学保健医療福祉学部理学療法学科・教授、2007年東北文化学園大学医療福祉学部リハビリテーション学科・非常勤講師(2011年まで) 2009年埼玉県立大学大学院保健医療福祉学研究科保健医療福祉学専攻・教授、2011年埼玉県立大学保健医療福祉学部理学療法学科・学科長、2015年埼玉県立大学 地域産学連携センター・所長、2015年埼玉県立大学大学院保健医療福祉学研究科保健医療福祉学専攻(後期課程)・教授				
所属学会(役職)	日本リハビリテーション医学会、JSEK(評議員)、ISEK、専門リハビリテーション研究会(監事)、全国大学理学療法教育研究会(評議員)				

### 【2017年度実績】

1. 研究業績					
著作・論文・学会発表等の名称	単著・共著の別	(1)発行所、全ページ数 (2)雑誌名、巻(号)、開始-終了ページ (3)学会名、開催都市	(1)(2)著者、編者名 (3)発表者(発表者は○印)	発行・発表年月	
(1) 著作					
1					
2					
3					
(2) 論文					
1	星文彦: 観察的動作分析の意義と役割、	単著	理学療法、34、4-9、	星 文彦	2017
2	jerk最小モデルを用いた歩行動作の重心移動軌跡の予測の為の基礎的研究、	共著	理学療法—臨床・研究・教育、24、62-67、	武田尊徳、山崎弘嗣、田代英之、中村高仁、星文彦、	2017
3	Muscle synergies underlying sit-to-stand tasks in elderly people and their relationship with kinematic characteristics	共著	Journal of Electromyography and Kinesiology 37、15-20、	H. Hanawa, K. Kubota, T. Kokubun, T. Marumo, F. Hoshi, A. Kobayashi, N. Kanemura	2017
4	脳卒中者におけるステップ動作開始時の運動学的解析	共著	理学療法科学、32(6):809-915、	大沼 亮、星 文彦、西原 賢	2017
(3) 学会発表					
1	脳卒中片麻痺者の加速度波形解析による歩行評価と下腿筋活動の関係	共著	第52回日本理学療法学会大会、千葉	○武田尊徳、吉野晃平、松岡正悟、小野田翔太、成塚直倫、福島正子、星文彦	2017.5.
2	体幹・下肢筋機能の基準値と歩行能力の関連について	共著	第52回日本理学療法学会大会、千葉	○菊本東陽、田口孝行、星 文彦	2017.5.
3	歩行時模擬スリッパに対する姿勢制御反応リュックサック保持の有無による比較	共著	第52回日本理学療法学会大会、千葉	○若狭春門、大場鴻大、塙 大樹、星 文彦	2017.5.

4	脳卒中後遺症者における生活空間と運動能力、日常生活活動および転倒関連自己効力感の関係	共著	第52回日本理学療法学会大会、千葉	○田代英之、井所拓哉、武田尊徳、中村高仁、星文彦	2017.5.
5	高齢者の方向転換開始動作におけるステップ戦略の分析	共著	第52回日本理学療法学会大会、千葉	○中村高仁、菊本東陽、武田尊徳、星文彦	2017.5.
6	徒手筋力計を用いた背臥位での膝伸展力測定法の考察	共著	第52回日本理学療法学会大会、千葉	○佐藤誠一、世古俊明、村山奈菜香、阿部琴美、丹波匡太郎、星文彦	2017.5.
7	ステップ動作の運動開始メカニズムに関する運動学的解析	共著	第52回日本理学療法学会大会、千葉	○大沼亮、星文彦	2017.5.
8	現状の理学療法教育における身体運動力学に関する教育内容と現場ニーズの乖離	共著	第52回日本理学療法学会大会、千葉	○国分貴徳、金村尚彦、星文彦、	2017.5.
9	認知症者の方向転換開始動作における運動戦略の分析-2ケースによる予備検討	共著	第54回日本リハビリテーション医学会学術集会、岡山	○中村高仁、星文彦	2017、6
10	Relationship of Dynamic Balance and Mobility to Community Ambulation Following Stroke	共著	ACRM ANNUAL CONFERENCE 2017: ATLANTA	○Hideyuki Tashiro, Takuya Isho, Fumihiko Hoshi,	23-28, Oct, 2017
11	Postural and stepping strategies on turning while walking.	共著	2017 ISPGR World Congress,, Fort Lauderdale, FL, USA	○Takahito Nakamura, Fumihiko Hoshi;	2017、25-29 June
12	Relationship between ultrasonic echo intensities of the skeletal muscle and liver in elderly and young individuals	共著	The 21ST IAGG World Congress of Gerontology & Geriatrics; IAGG 2017 · San Francisco, California	○Ken Nishihara, Hisashi Kawai, Kazuhiko Hara, Fumihiko Hoshi	23-27, July, 2017
13	当院理学療法士における免荷式リフト(POPO)の活用に対する意識調査	共著	第25回日本慢性期医療学会、仙台市	○三橋侑 広瀬亜子 高橋卓見 森僚馬 高橋雅俊 久保田和宏 中川智徳 星文彦	2017,10,19-20
14	当院回復期リハ病棟における入院時FIMをもとにした予後予測の検討	共著	回復期リハビリテーション病棟協会、第31回研究大会(岩手)、盛岡	○菅井光、星文彦、	2018、2
(4)その他					
1	該当なし				
2					
3					
2. 競争的資金等の研究					
	競争的資金等の名称		研究名、研究代表者・研究分担者の別		研究期間
1					
2					
3					
3. 教育業績					
	講義・演習・実習・論文指導等の名称	期間	概要(教育内容・方法等において工夫した点)		
(1)講義					
1	理学療法学概論	4月～6月	理学療法について、障害の捉え方、定義、実践の紹介しながら、理解を深める様に教授した。手法として、映画鑑賞、KJ法によるグループワーク、レポート課題なども用いた。		

2	運動学入門	6月～7月	形態計測、関節可動域計測、姿勢の描写、動作観察、ハンドリングについて演習と交え教授した。	
3	神経障害理学療法学	後期	中枢神経疾患に対する理学療法の一般的理論の変遷と脳卒中回復期及び失調症に対するアプローチの理論を教授した。	
4	発達障害理学療法学	前期	小児疾患に対する理学療法における発達のアプローチの理論を教授した。	
5	運動制御と運動学習	11月～12月	運動制御理論、特に姿勢制御について研究文献抄読を通して議論した。	
6	社会構想論	2月	大学の地域産学連携センターの立場から、社会貢献事業について解説した。	
7	緩和ケア総論	10月	緩和ケアにおけるリハビリテーションの概念について解説した。	
8	運動解析学特論	前期	運動解析学の理論を運動学、運動力学、生体活動の観点から解説をした。	
9	理学療法症候障害論	前期	疾病の症候学に基づく障害構造についてシステム論の視点から解説した。	
<b>(2) 演習</b>				
1	神経障害理学療法学実践テュートリアル	前期	脳卒中に関するペーパーptで評価と治療についてグループワークを行った。	
2	発達障害理学療法学実践テュートリアル	後期	小児疾患(脳性麻痺、筋ジストロフィー)に関するペーパーptで評価と治療についてグループワークを行った。	
3	リハビリテーション学演習	後期	学生の研究テーマに沿って、運動解析学の手法を解説演習をした。	
4	理学療法症候障害論演習	前期	疾病の症候学と機能障害の関係を基盤に文献抄読を通して理学療法評価学の理解を深めた。	
<b>(3) 実習</b>				
1	神経診断学実習	後期	神経症候学に基づき、理学療法に関連する検査について運動麻痺や姿勢障害、不随運動等についてグループワークと実習を通して理解を深めた。	
2	神経障害理学療法学実習	前期	脳卒中及び失調症に対する運動療法の実際を動画教材の視聴及び学生間で実習を行った。	
3	発達障害理学療法学実習	前期	脳性麻痺に対する運動療法の実際を動画教材の視聴及び学生間で実習を行った。	
4	臨床実習 I・II・III・IV	前期後期	検査測定実習について指導した。理学療法評価について、施設訪問を通して指導した。理学療法の総合的実践を病院へ訪問を通して指導した。	
5	ヒューマン体験実習	後期	2グループ担当	
<b>(4) 論文指導</b>				
1	学部卒業論文	2017.4-2017.3	2名	
2	修士・前期課程	2017.4-2017.3	主指導:2名	
3	博士課程	2017.4-2017.3	副指導:1名	
<b>(5) その他</b>				
1	該当なし			
2				
3				
<b>4. 社会貢献活動</b>				
<b>(1) 講演会、研修会等の講師</b>				
	講演会、研修会等の名称	主催	講演、研修等のテーマ	開催年月
1	平成29年度臨床実習指導者講習会	埼玉県立大学理学療法学科	バランスとハンドリング	2017年9月1日
2	生涯運動発達と老化	放送大学埼玉学習センター	講義	2017/12/22～28日
3				
4				

(2) 国、自治体、財団法人等における委員等			
	国、自治体、財団法人等の名称	委員等の名称	任期
1	越谷市生涯学習審議会	副会長	2019/6/30まで
2	埼玉県健康関連サービス産業会議	委員	2019/3/31まで
3			
(3) ジャーナリズムでの発言			
	メディア等の名称	内容	年月
1	該当なし		
2			
3			
5. 学内運営(委員会委員)			
1	地域産学連携委員会		
2	教育研究審議会		
3	研究推進委員会		
4	教員人事委員会		
6. 受賞(研究、教育、社会貢献活動に関するもの)			
	受賞名	主催	受賞年月
1	日本理学療法士協会協会長賞	日本理学療法士協会	2017年6月
7. 特許の保有状況			
	特許名	特許番号	登録年月
1	該当なし		
8. 特記事項			
	該当なし		